

資料 パブリックコメント実施結果

【意見募集期間】

令和3年（2021年）10月15日（金）～11月15日（月）

【意見提出方法】

郵送、FAX、電子メール、持参

【資料の配布、閲覧場所】

- ・札幌市スポーツ局招致推進部調整課（北2条西1丁目1-7 ORE札幌ビル9階）
- ・札幌市役所本庁舎2階 市政刊行物コーナー
- ・各区役所 総務企画課広聴係
- ・豊平区内まちづくりセンター
- ・札幌市公式ホームページ

【意見提出者数、意見数】

- ・意見提出者数：11人
- ・意見数：49件

【意見の内訳】

- ・年代別内訳

	40歳未満	40代	50代	60代	70歳以上	不明
人数	0	2	4	2	2	1
件数	0	16	14	6	5	8

- ・提出方法別内訳

	郵送	FAX	電子メール	持参
人数	0	0	10	1
件数	0	0	45	4

- ・項目別意見数

- 第1章 基本構想策定の背景・・・・・・・・・・・・・・ 4件
- 第2章 計画候補地の現況整理・・・・・・・・・・・・・・ 8件
- 第3章 スポーツ交流拠点の目的・・・・・・・・・・・・・・ 1件
- 第4章 スポーツ交流拠点の在り方・・・・・・・・・・・・・・ 31件

【意見の概要と札幌市の考え方】

お寄せ頂いたご意見の概要と札幌市の考え方は以下のとおりです。なお、趣旨が同様のご意見はまとめて掲載しています。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
第1章 基本構想策定の背景（1～20ページ）				
1	P10 -11	1-2	スポーツの目的を競技スポーツと健康交流レジャースポーツに分けたとき、競技スポーツとして専用利用をしたいというアイスホッケーのニーズは強くあり、通年リンクも月寒体育館と星置スケート場では足りない。	令和3年に策定した「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」の考え方を踏まえ、人口減少等に対応するための持続可能な公共施設整備が必要という観点から考える「施設総量適正化」とスポーツ参画人口拡大のためにスポーツに親しめる機会の確保が重要という観点から考える「機能向上」という2つの異なる課題への対応を両立させながら、将来にわたって、市民がスポーツに取り組める、持続可能な拠点整備を検討してまいります。
2	P10 -11	1-2	一般開放が市民に健康交流レジャーとしての役割を果たすことは十分に理解しているが、その利用率が低く問題となっているのではないかと。仮に一般営業の時間を専用利用に変えた場合、その稼働率や利用料による収益は増すことが期待できる。リンクの施設を検討するうえで目的の異なる利用者が同じ場所を利用するには施設の数が少ないことにより既に無理が生じてきている。	
3	P13	1-3 (1)	ウィンタースポーツ実施率の低下、特に子供の実施率低下の原因は親の仕事、用具費、利用料だけではなく利用できる期間が限られていることも挙げられる。その地域の競技発展には少なくとも6歳から18歳まで競技を続けられる通年リンクのある環境が必要	
4	P13	1-3 (1)	新アリーナの計画では真駒内セキスイハイムアイスアリーナ（リンク開放は3ヶ月）のような多機能型の大きな施設を計画してもウィンタースポーツ拠点都市としての機能は果たせない。札幌ドーム周辺に新月寒体育館を整備する構想があるようだが、アリーナの建設とは別に現行の月寒体育館と同等の施設が別途必要。さらに、現在の高い稼働率を考慮すると2面のリンクは必要	

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
第2章 計画候補地の現況整理 (21~30ページ)				
5	P21	2-1	計画候補地については、新設予定施設の候補地に絞って示すべき。また、各施設の整備面積、施設毎の具体的な計画候補地、各候補地のアクセス性を明示すべき。	具体的な拠点導入機能や各機能の規模・配置の検討等を踏まえ、計画地の範囲や各施設へのアクセスを今後の基本計画等で検討してまいります。
6	P22 -29	2-2	構想策定にあたっては、新千歳空港からの距離の近さを重視し、国内外を問わず国道36号の清田方面からの広域的な交流を促進する観点を重視すべき。道内で言えば、北海道の今後の活力の源である「KIECE」との交流を意識すべき。	札幌市では、北広島市、石狩市、江別市、千歳市及び恵庭市を含む近隣11市町村と形成する「さっぽろ連携中枢都市圏」において、結びつきやネットワークの強化に係る取組をはじめとする様々な連携した取組を推進しております。頂いたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。
7	P22 -29	2-2	北海道の活力の源は千歳から札幌の道央地域にあり、今後の札幌の活力の重心は、豊平区・厚別区・清田区がある東部地域に移っていくのではないかと。札幌市の均衡ある発展を考えれば、本構想は、札幌で唯一軌道系交通機関がない清田区における「地域交流拠点清田の官民連携によるまちづくり」と連動させ、整合を図ることも重要	スポーツ交流拠点の具体的な整備内容を踏まえつつ、近隣の地域交流拠点である福住、月寒、大谷地、新さっぽろ、清田のまちづくりを進めてまいります。
8	P25 -26	2-2 (2)	外周道路の混雑度の評価や、アクセス向上の検討を行うには、イベント開催時の来場者数の計画値を示し、駅からの距離や、交通手段毎の割合などの想定データを提示したうえで進めるべき。	具体的な拠点導入機能の検討と併せて、交通計画の検討を行い、国道36号への交通負荷の抑制や公共交通利用者の更なるアクセス性向上について必要な検討を行います。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
9	P30	2-3 2)	清田区方面からのアクセスや高次機能交流拠点としての必要機能確保などを考えた場合、地下鉄東豊線の清田方面への延長は必要不可欠。さらに、2030大会招致を想定した場合にも、地下鉄延伸によるアクセス向上を早急に検討する必要がある。	地下鉄の延伸については、多額の建設費や運営経費を要するため、多くの方に利用していただくことにより、これらの費用を料金収入で賄うことができる事業採算性の確保が必要となります。
10	P30	2-3 2)	スポーツ交流拠点の整備に合わせて、交通アクセスの整備が必要。地下鉄東豊線を福住から延伸し、「スポーツ交流拠点」駅を設置してほしい。そうすると、清田区まであとわずかなため、地下鉄を清田まで延伸してほしい。	清田方面(福住～清田間)への延伸については、冬季オリンピック・パラリンピック招致や札幌ドーム周辺に整備される施設の計画を踏まえた上で、可能性を検証していくこととしております。
11	P30	2-3 2)	丘珠空港をジェット化し千歳空港とアクセスを2つにすることで天候不良による影響や国道の混雑を分散させる。東豊線を丘珠空港と札幌ドームまで各々延伸しアクセスを改善すべき。	なお、丘珠空港の利活用については、別途検討を行っており、頂いたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。
12	P30	2-3 2)	地下鉄駅から札幌ドームまで冬に車椅子の方などが一人で行ける環境にない。オリンピックや公共の利用を考慮するならば地下鉄駅からバリアフリーの導線を確保し、降雪の影響を受けないように検討してほしい。	札幌市では「新・札幌市バリアフリー基本構想」を定めて計画的にバリアフリーなまちづくりを進めており、冬期間においては歩道除雪やつるつる路面对策を実施しているところです。札幌ドーム周辺については年齢や障がいの有無に関わらず誰もが利用可能な拠点整備を目指していることから、上記のほか、イベント時などの臨時的な対応も含めた、公共交通利用者の更なるアクセス向上について必要な検討を行ってまいります。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
第3章 スポーツ交流拠点の目的（31～33ページ）				
13	P31	3(3)	スポーツ関連の機能整備において拠点性の向上やまちの活性化を目指す場合と、地下鉄駅やターミナル機能の整備が伴う場合とでは、活性化の状況が大きく異なることが考えられるため、前提を明確にしたうえで、経済・まちの活性化についての目標や成果指標を検討すべき。	今後の基本計画等で、具体的な拠点導入機能や拠点利用者のアクセス性向上を検討するとともに、拠点を整備することによる、社会的・経済的効果について、必要に応じて、事業に参画する民間事業者の協力を得ながら、具体的な指標の設定と測定方法を検討してまいります。
第4章 スポーツ交流拠点の在り方（34～44ページ）				
14	P37	4-2	計画候補地に整備する施設等の検討には施設総量の評価が必要であり、既存施設の整理や新たに整備する施設との関係（どの施設の後継施設か）などの情報を示す必要がある。	令和3年に策定した「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」の考え方を踏まえ、人口減少等に対応するための持続可能な公共施設整備が必要という観点から考える「施設総量適正化」とスポーツ参画人口拡大のためにスポーツに親しめる機会の確保が重要という観点から考える「機能向上」という2つの異なる課題への対応を両立させながら、将来にわたって、市民がスポーツに取り組める、持続可能な拠点整備を検討してまいります。 なお、具体的な拠点導入機能や各機能の規模・仕様の検討と併せて、周辺のスポーツ施設の集約化等を今後の基本計画等で検討してまいります。
15	P37	4-2 2)	アリーナの基本方針について、札幌ドームと差別化を図るとされているが、競合により札幌ドームの稼働率を下げることにならないか。また、道所管の真駒内公園屋内競技場と利用目的が重なるように見えるが、こうした関連施設を含めて施設総量計画を当方針において示すべき。	
16	P37	4-2 3)	「周辺のスポーツ施設等の集約化」とあるが、どの施設の移転・建替えとなるかを示すべき。また、移転する施設の跡地利用についても、可能な限り示すべき。	

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
17	P37	4-2 2)	各種スポーツやコンサート利用の需要を鑑みると8千～1万人規模のアリーナが必要だと考えられることから、バスケットボールとアイスホッケー両方の本拠地となっているアメリカのアリーナのように、コンサートやアリーナスポーツなどの他イベントに対応できる仕様を検討してほしい。	プロスポーツチームの試合や、音楽・イベント興行等に活用するための「みる」スポーツ施設として、アリーナの整備を検討いたします。 なお、整備にあたっては、令和3年に策定した「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」に基づき、老朽化したスポーツ施設の集約や民間活力の導入等 を検討いたします。
18	P37	4-2 2)	アリーナについては、老朽化が進む月寒体育館や真駒内屋内競技場の後継施設としての役割のほか、バスケットボール・レバンガ北海道、フットサル・エスポラーダ北海道、バレーボール・サフィールヴァ北海道などの本拠地としての機能を満たす施設としてほしい。	
19	P37	4-2 3)	スポーツ施設を集約し、大規模なイベントが実施された場合にスポーツ交流拠点である交流施設は練習用としての機能を果たせなくなるのではないかと。 頻繁にコンサートやプロスポーツの試合などを実施した場合、規模によっては交通渋滞などで全ての施設がストップする可能性を考えると、日常の練習を停止させる頻度が多くなると懸念される。	スポーツを「する」「みる」「ささえる」様々な機能やそれを補完する機能を当該拠点に集約することを検討していきますが、検討にあたっては、各機能へのアクセス、国道36号への交通負荷等を勘案しながら検討を進めてまいります。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
20	P37	4-2 3)	オリンピックレベルのアイスホッケーを実施することができても通年でスケートリンクとして使うことは無いと予想される。その場合、オリンピックレガシーとしての意味を持たせるには屋内施設の充実が望まれる。	札幌市が招致を目指している2030年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催された場合、大会期間中は大会の象徴となる場にしていくとともに、大会終了後は、新たなレガシーとして大会の記憶をつなぐ象徴空間にしていくことを検討してまいります。 なお、拠点整備にあたっては、その都度施設利用者等を反映させながら検討を進めてまいります。
21	P41	4-4	1972年の冬季五輪後、月寒体育館のおかげでアイスホッケー競技者は確実に増えた。長野五輪でアイスホッケーのメイン会場として使用したビッグハットは現在も利用されているが、アイスホッケーにおけるレガシーとしての機能は果たしていない。2030年の冬季五輪が実現した場合、その施設がレガシーとなり月寒体育館のようなスポーツ文化の50年先を支えていける施設になるかを注視している。	
22	P43	4-5 4)	現場やその周辺で関わる人たちへ耳を傾けて欲しい。北海道、日本とエリアを拡大しても200万都市である札幌市には冬季スポーツにおける文化の継承の期待と責任がある。	
23	P43	4-5 4)	札幌市内を見渡してもスピードスケート部は無く、フィギュアスケートにおいては個人で学校に登録している生徒のみ。冬季五輪を招致するにあたって現在活動している競技者やそのスポーツに馴染みのある市民が増えることで開催への理解が高まっていくのではないかと。是非とも未来の子供たちにこの競技ができる環境を与えてほしい。	

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
24	P37	4-2 4)	健康交流レジャー目的のスケートの需要は大通りの雪まつり会場に設置する屋外リンクに見られるように場所や時期によっては非常に高い人気がある。札幌にも冬季限定の屋外スケートリンクがあれば冬の観光名所としての可能性もあり、20代～40代のウィンタースポーツ実施率の低下改善にも効果がある。スケートは冬季スポーツの中でも貸しスケートさえあれば気軽にできるものであり、にぎわい施設の一つのアイデアとして加えてほしい。	年齢や障がいの有無に関わらず利用可能な「する」スポーツ機能を整備することで、誰もが自分にあったスポーツの楽しみ方に出会える機会を提供できるよう検討してまいります。
25	P43	4-5 1)	身体機能の向上という意味で、ヨガ、太極拳、座禅といった静的な教室なども開催してほしい。天候次第で外でもできるのはとても魅力的。どれもが体幹を鍛え、競技にもプラスになるとともに、運動神経が鈍くても参加できるため、より多様な人がドームに来る動機にもなる。	
26	P43	4-5 1)	高齢者の体力向上のため、「卓球療法」が出来る施設をつくってほしい。	
27	P37	4-2 4)	札幌ドーム周辺には、試合・イベント前に観客同士が交流できる場所がなく、会場内以外の盛り上がりが乏しいため、商業施設やキッチンカーなどが出店できる交流広場があると良い。	札幌ドームやアリーナとの相乗効果を期待し、交流拠点としてのにぎわい創出に寄与する施設として、多くの利用者がスポーツ観戦の前後の時間も含めて1日中楽しめる滞留機能や利便施設等の整備を検討してまいります。
28	P37	4-2 4)	にぎわい施設の例をイメージできるように参考資料で示すべき。複合商業施設となる場合などは更なる交通対策が必要	概要版 P2 拠点整備の基本方針において、他都市の事例として「MURASAKI PARK TOKYO」を示しております。また、にぎわい施設を含めた具体的な拠点導入機能については今後の基本計画等で検討してまいります。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
29	P39 -40	4-3	広い面積が必要となり、農業研究センター側に施設を配置せざるを得ないと思われるが、その場合のゾーニングは、アクセスエリアや賑わいエリアが中心となり、札幌ドーム、集客エリア、交流エリアが周囲に配置されるイメージ図の方が実態に近づくのではないか。	具体的な拠点導入機能や各機能の規模・配置の検討等を踏まえ、計画地の範囲やゾーニングを今後の基本計画等で検討してまいります。
30	P42	4-5	近年、高校のアイスホッケー選手の人数は減少傾向にあり、札幌出身の選手はわずか。日頃は札幌のアイスホッケーチームは小学生から大人まで月寒体育館、星置スケート場、真駒内セキスイハイムアイスアリーナの3会場を練習会場としている。ウィンタースポーツ拠点都市を目指すためにも広く周知し、関係する団体（冬季スポーツの連盟）から関わる方々へ広く意見を求める必要がある。	冬季スポーツや障がい者スポーツの競技団体など、今後施設利用が見込まれる方々の意見も踏まえながら、今後の検討を進めてまいります。
31	P43	4-5 1)	福島県新地町に有るパンプトラックのようなコースを作ってほしい。	スポーツに興味を持つきっかけを創出するためにも、若者を中心に人気の高いスポーツができる機能等の導入を検討いたします。
32	P43	4-5 4)	当該構想は、福住一清田間のまちづくりにも大きく寄与するものであり、大いに期待している。今後、冬季競技の選手強化を目的とする国のハイパフォーマンスセンター誘致を図り、スポーツ交流拠点を広げてほしい。	トップアスリートの活動拠点の誘致等により、アスリートを「ささえる」人材の育成や、アスリートの国際競技力を向上させる機能の設置についても検討していきます。 また、具体的な拠点導入機能の検討や周辺施設との連携等を踏まえ計画地の範囲を検討してまいります。
33	P44	4-5 7)	民間活力の導入を検討するにあたり、民間の収益性を確保出来るよう、集客性を高める施設の配置が必要不可欠である。そのため、民間による企画、計画、施工の一体的実施が可能となるような、提案型施設整備の導入を強く望むとともに既存規制の緩和措置や仕組みなどについて十分検討してほしい。	公的資金の抑制だけでなく施設の充実やサービスの向上等を図るため、スポーツ施設管理者やプロモーター、ディベロッパー等からの意見を聞きながら、民間活力の導入を検討してまいります。 また、事業手法についてはPPP/PFI手法の導入等も含めて検討してまいります。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
34	P44	4-5 8)	日本ハムが転出する2023年以降に札幌ドームでの野球利用を停止すべき。野球用の設備を撤去し、北海道コンサドーレ札幌のホームスタジアムとしてサッカーを中心とした球技場としての機能を強化して欲しい。	北海道日本ハムファイターズ移転後の札幌ドームの運営については、サッカーやラグビーをはじめとしたスポーツイベントの誘致、今までファイターズの利用により開催できていなかった夏場のイベントの開催、展示などのコンベンションのほか、野球を含めたアマチュア利用の機会の拡大など、様々な活用をしていきたいと考えております。
35	P44	4-5 8)	札幌ドームをコンサドーレのホームスタジアムとする場合、ピッチとの距離を縮めるためのスタンド改修や、観戦の快適性向上のためのセンターハングビジョンの導入などを検討してほしい。	
36	P44	4-5 8)	現在、札幌ドームはサッカー用ピッチをアリーナ内に格納する際に90度回転させる必要があるが、今年5月に設備が故障し、今後の管理・保全へのリスクが懸念されるため、将来的にピッチを回転させずに試合開催が可能になるような設備改修も検討すべき。	
37	P44	4-5 8)	札幌ドームの野球利用を停止することでコンクリート床を活かした大型屋内施設としての自由度を高めることができるため、コンサート利用はもちろんポストコロナ以降の展示場不足や冬季間の市民の運動機会不足を補う役割を担える可能性がある。	
38	P44	4-5 9)	「健康」はからだと心が伴ってのものであり、心の健康は自然とともにあるもの。施設やイベントというハード・人工的なものに偏るあり方に懸念を感じる。眺望の良さ、芸術作品、動植物などの恵まれた環境の保全・活用に努めてほしい。他にはない札幌ドームの魅力はソフト面にある。	本書P32 2-3 3)のとおり、緑豊かな環境を守り育てるための各種規定や羊ヶ丘展望台からの眺望等、自然的特性に配慮してまいります。また、豊かな自然を介した学びや交流機能の導入による、地域資源の活用を検討いたします。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
39	P44	4-5 9)	北農研と隣接している立地を生かし、「コミュニティ農園」を一部に創るのはどうか。周辺住民、訪れる人、スポーツをする子供達が栽培に関わる場を創ることで、農業に対する感謝の心や自然とともにある自分などを感じることができる。そこでできた農作物を食べ、自然の恵みと共に育ち、スポーツにいそしんだ子供達は将来、心身ともに元気な世界のトップアスリートになってゆく。	近隣の施設等との連携により、交流・滞留や産業振興機会の創出、アスリートの発掘・強化の土台づくり等に寄与できるよう検討を進めてまいります。
40	P44	4-5 9)	札幌ドームを含めた羊ヶ丘は、北海道札幌を象徴する景観であり、将来の観光資源としても潜在力がある札幌に残された唯一の地区 当該構想の策定にあたっては、国道36号と羊ヶ丘通に挟まれた全体的な空間についての将来の活用イメージを共有する必要があり、スポーツ局所管にとどまらず、札幌市のまちづくり政策全体の中で確実に位置付ける必要がある。	平成25年に策定した「札幌市まちづくり戦略ビジョン」や平成28年に策定した「第2次札幌市都市計画マスタープラン」において、当地区は、スポーツや集客交流産業の振興に関わる拠点として位置付けています。 一方で、当地区は風致地区に指定していることから、このような地域資源としての位置付けと整合を図りつつ検討を進めてまいります。
41	P44	4-5 10)	当該構想の策定と今後の具体的な事業への展開が、近隣大学等との連携を図りながらのスポーツを通じた健康・観光施策と連動し、経済活性化や雇用創出を通じた地域創生へと結実し、首都圏一極集中緩和のための特筆すべき施策となることを期待する。	地域資源を活用したスポーツツーリズムの展開や近隣の施設等との産学官連携・スポーツ研究等により、経済やまちの活性化を目指していきます。
42	P44	4-5 10)	福住駅からドームまでの街づくりに一体感のある方向性を示すべき。今は国道沿いにマンションなどもあり歩いて行くときワクワク感が創出されるような雰囲気が乏しい。	スポーツ交流拠点に訪れる方々が福住駅からの道中で機運を高める取組みは重要であると考えますので、頂いたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。

No.	該当 項	該当 項目	意見概要	札幌市の考え方
43	P44	4-5 10)	車両通行が多い国道36号線と羊ヶ丘通に挟まれた農業研究センターの土地は、全面的に札幌市や民間が利用できるようになってほしい。	具体的な拠点導入機能の検討や周辺施設との連携等を踏まえ計画地の範囲を検討してまいります。 なお、「第2次札幌市都市計画マスタープラン」で定められているとおり、市街地の外にある高次機能交流拠点周辺においては、拠点の機能や魅力の向上に資するよう、周辺を含めた自然環境の保全を前提とし、地域特性を踏まえて景観にも配慮した限定的な土地利用の許容について検討することとしています。
44	P44	4-5 10)	スポーツ交流拠点に隣接する場所（北海道農業研センターの土地）に、国道36号に面した札幌初の「道の駅」を建設するのはどうか。	